

炎症性腸疾患の薬物療法における 薬剤師の知識の均てん化に向けた 取り組み

○中野敬太⁽¹⁾、風間友江⁽²⁾、野々山雅俊⁽¹⁾、藤居 賢⁽¹⁾、
仲瀬裕志⁽²⁾、福土将秀⁽¹⁾

(1) 札幌医科大学附属病院薬剤部

(2) 札幌医科大学医学部消化器内科学講座

日本炎症性腸疾患学会 COI 開示

発表者名(全員記載): ◎中野敬太、風間友江、野々山雅俊、藤居 賢、仲瀬裕志
福土将秀(◎発表責任者)

座長又は司会者名 : 横山 薫、高津 典孝、水野 光

**演題発表に関連し、開示すべきCOI関係
にある企業などはありません。**

背景・目的

- 炎症性腸疾患 (IBD) 患者数は年々増加しており、使用可能な薬剤も年々増加している。
- 使用可能な薬剤の増加に伴い、IBDの薬物治療が複雑化し、薬剤師の役割も増している。
- IBDは外来での治療が中心となるため、保険薬局の薬剤師による薬剤管理指導は重要である。

背景・目的

- 治療薬の数が増えている一方で、保険薬局の薬剤師にとってIBDの薬物治療について学ぶ機会が十分であるかは不明である。
- 今回、当院の近隣薬局薬剤師のIBD治療薬に対する知識の均てん化を目的とした取り組みと、近隣薬局薬剤師のIBD治療薬に対する知識の実態について報告する。

方法

- 2023年9月より当院消化器内科病棟担当薬剤師が主体となり、IBD治療薬についての勉強会を医師と共同して開催した。
- 勉強会参加の対象者は医療従事者とし、保険薬局薬剤師以外の医療従事者も参加可能とした。
- 現在まで計3回実施し、第1回は5-ASA製剤、第2回はチオプリン製剤、第3回はステロイド製剤、カルシニューリン阻害剤について取り上げ、それぞれの会の終了後にアンケートを実施した。

方法

第1回近隣薬局薬剤師向けIBD勉強会

今回のテーマ
IBDの基本治療薬の5-ASAについて取り上げたいと思います。

日時：2023年9月14日(木) 18:30～（30分から1時間程度）

Zoomによるオンライン開催

ミーティングID: 945 8269 7728

パスコード: 036168

① 18:30～18:45

「5-ASAについて」

演者：札幌医科大学附属病院 薬剤部
中野 敬太

② 18:45～19:00

「5-ASA 不耐について」

演者：札幌医科大学医学部 消化器内科学講座
風間 友江 先生

質疑応答：19:00～

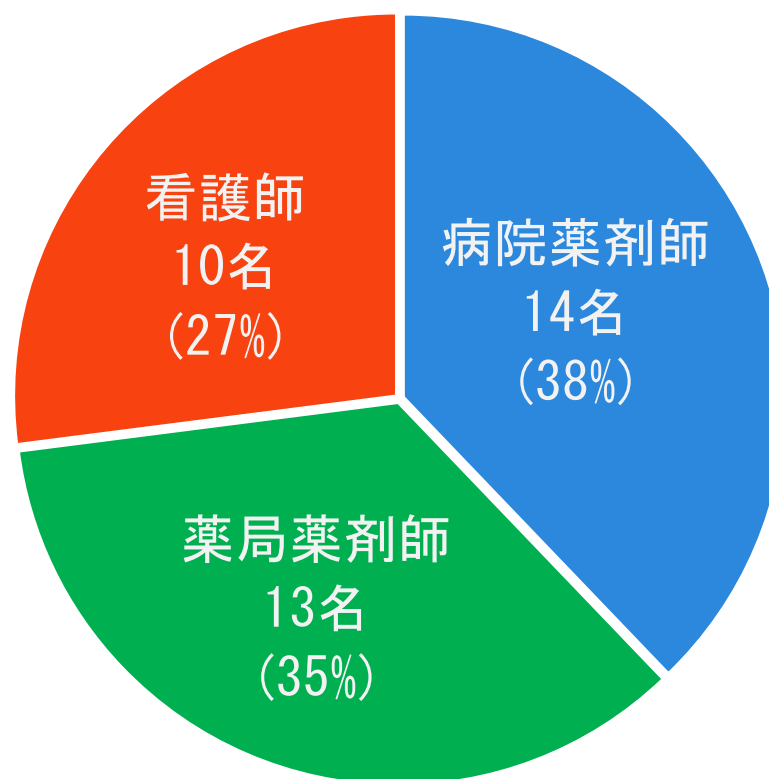
※実際に作成した案内状の一部

- 開催形式はZoomによるオンライン開催とした。
- 薬剤師からIBD治療薬に関する基本的な使用方法、注意点などについての講義を行った後、医師から症例を交えての使用実態について講義を行った。
- 今回は第1回に行った5-ASA製剤のアンケート結果を報告する。

結果①

職種

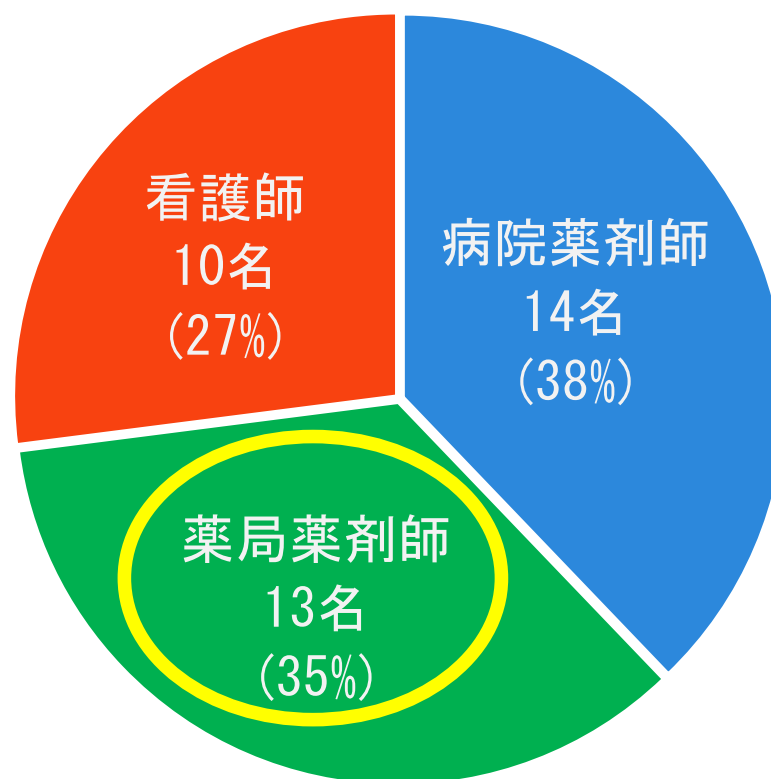
回答数37



結果①

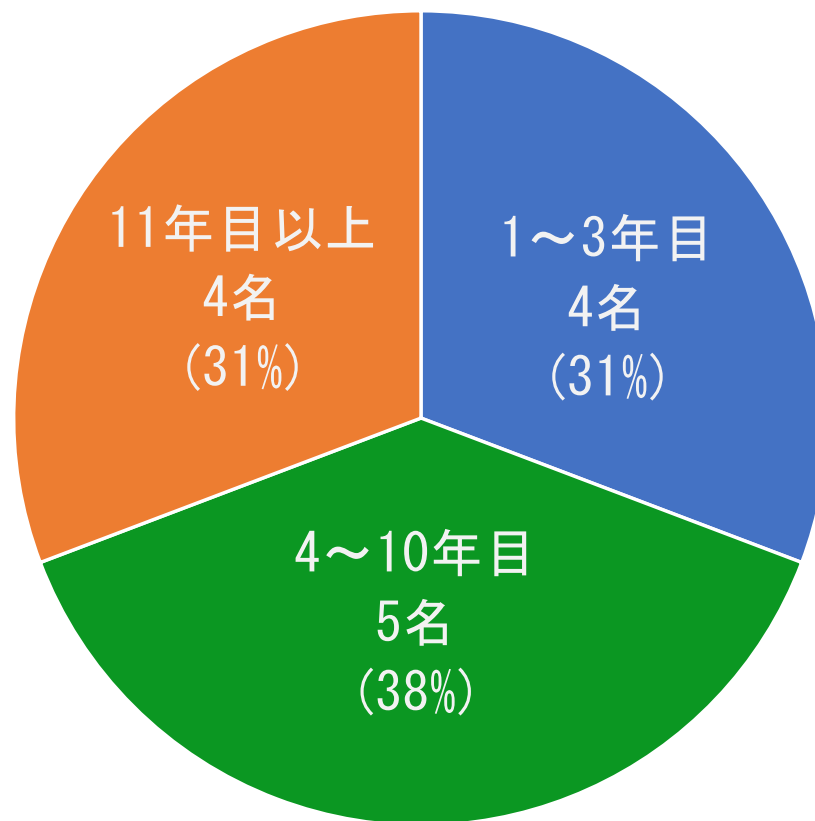
職種

回答数37



結果②

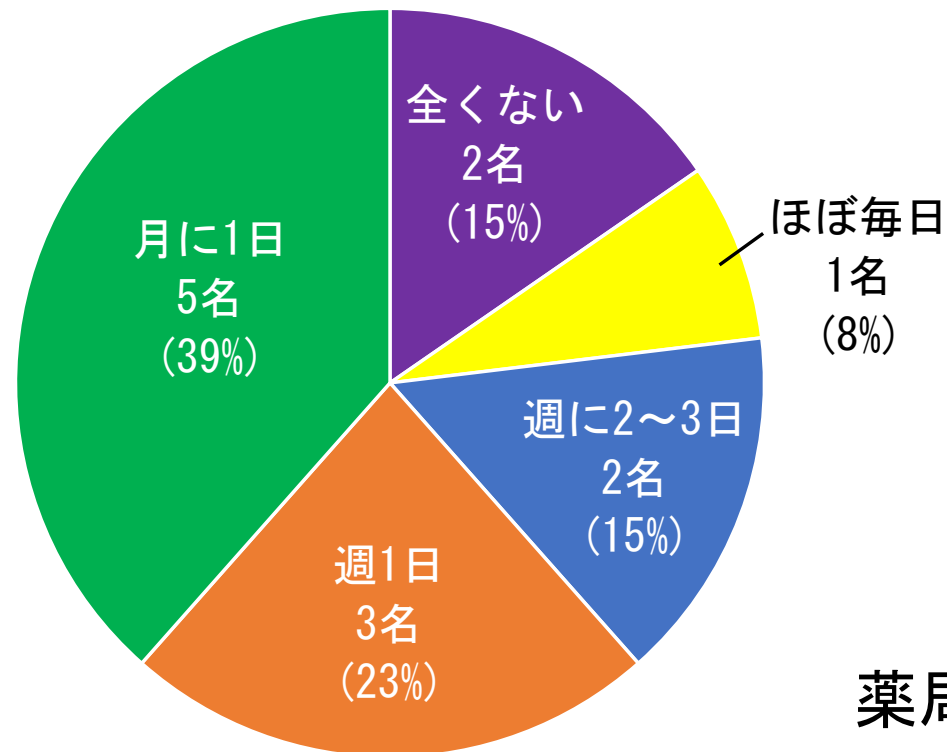
勤務年数



薬局薬剤師：13名

結果③

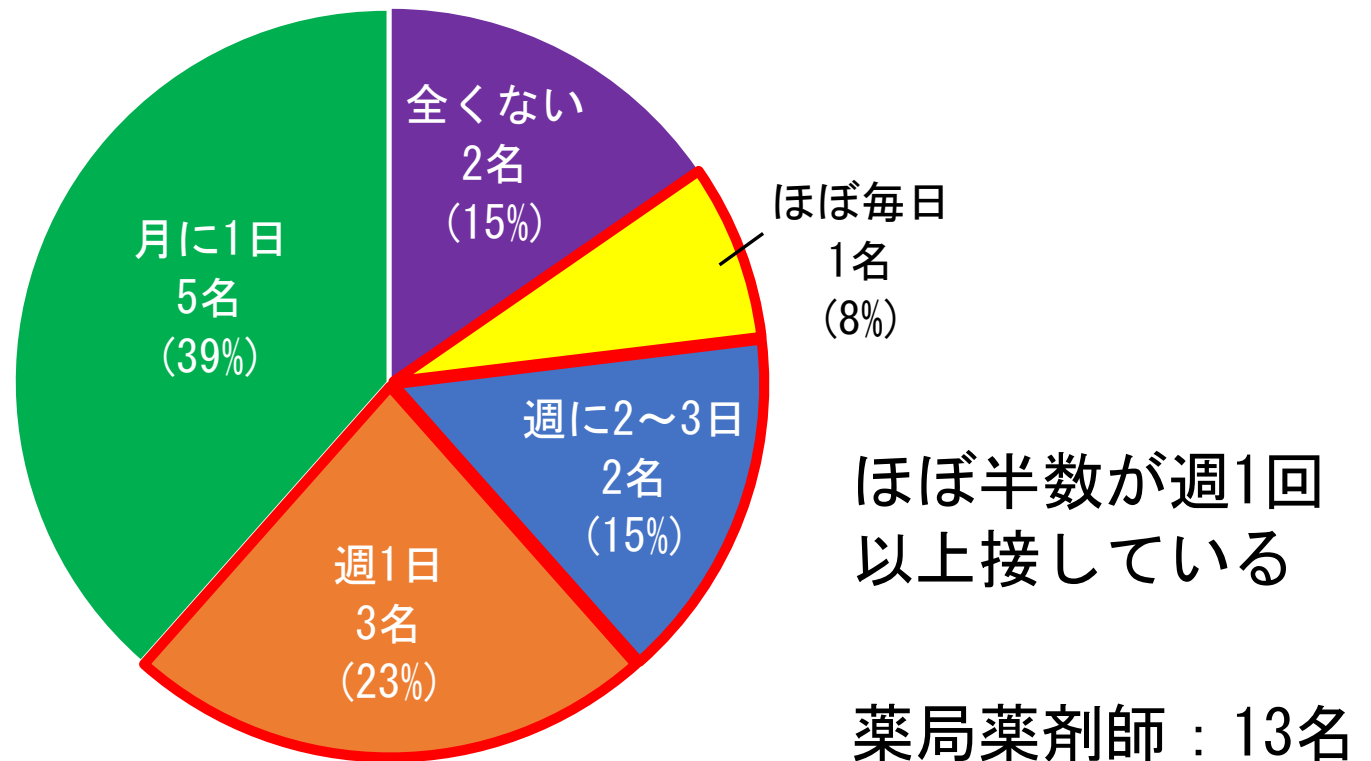
日常業務でIBD患者と接する機会



薬局薬剤師：13名

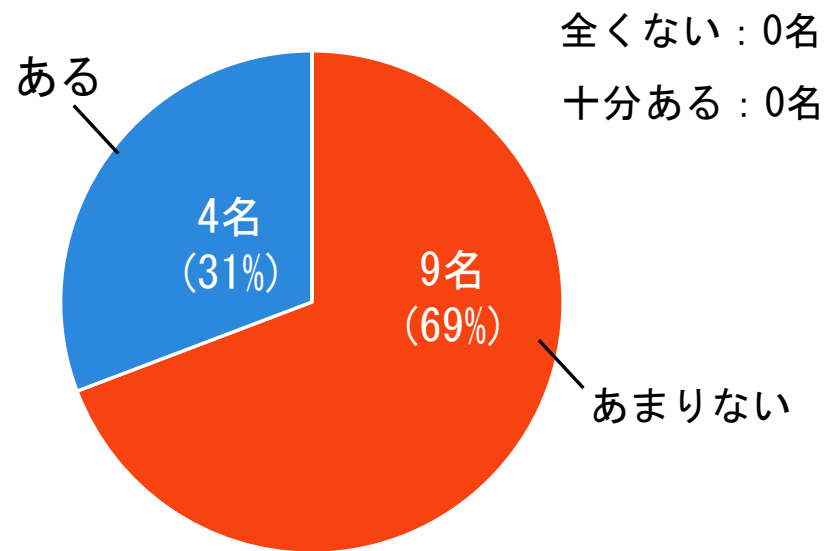
結果③

日常業務でIBD患者と接する機会



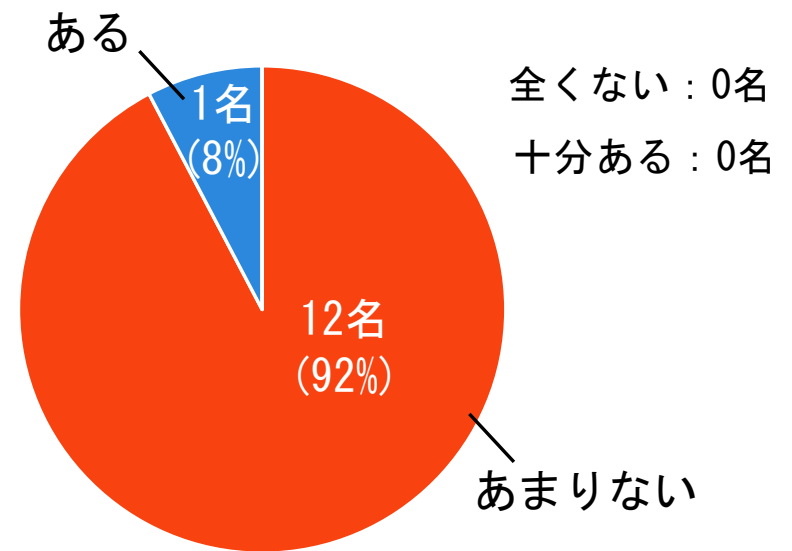
結果④

IBD治療薬について 十分な知識があるか



薬局薬剤師：13名

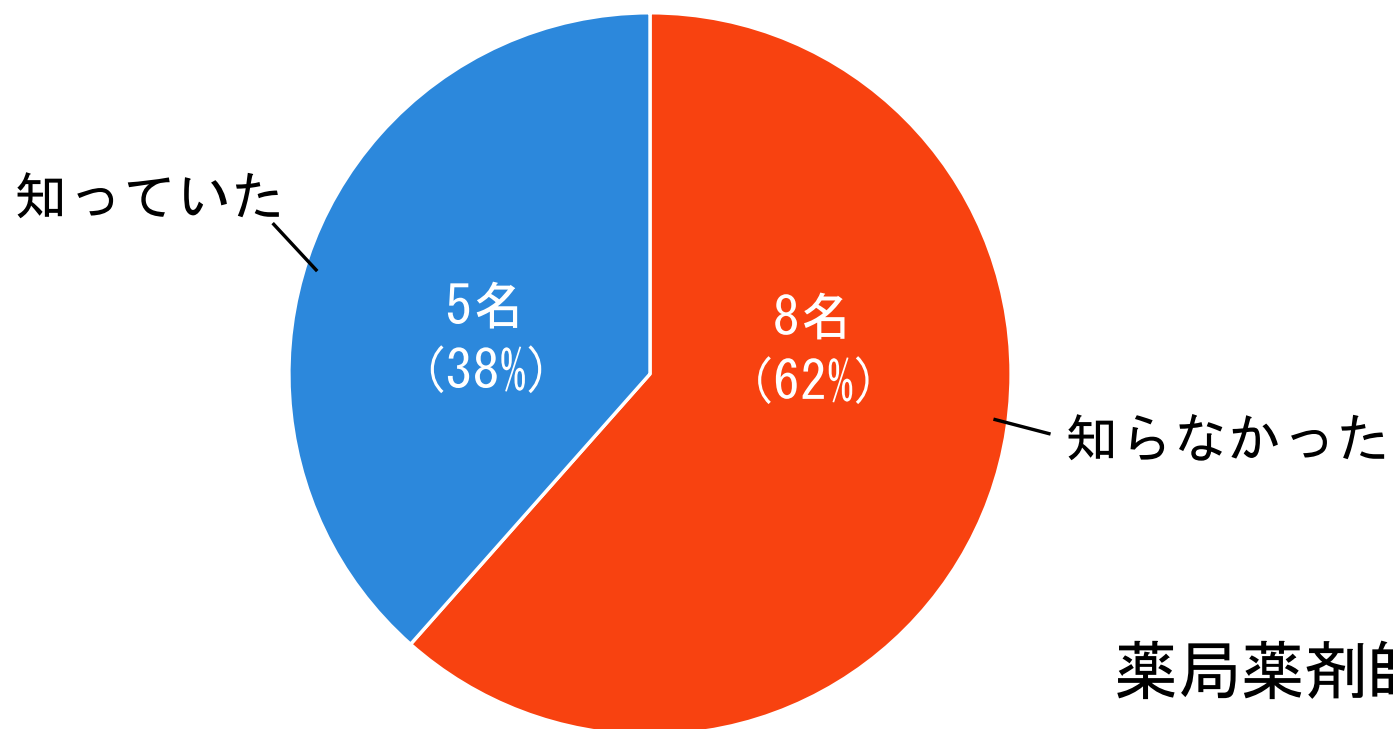
IBD治療薬について 学ぶ機会があるか



薬局薬剤師：13名

結果⑤

5-ASA不耐症を知っていたか



実際に勉強会で使用したスライド

★5-ASA不耐症（アレルギー）★

- 発熱、下痢、血便、発疹、倦怠感を生じる

- 服用開始数日～数週後の初期に好発

※IBDの悪化ととらえ、5-ASA投与が継続されないよう注意

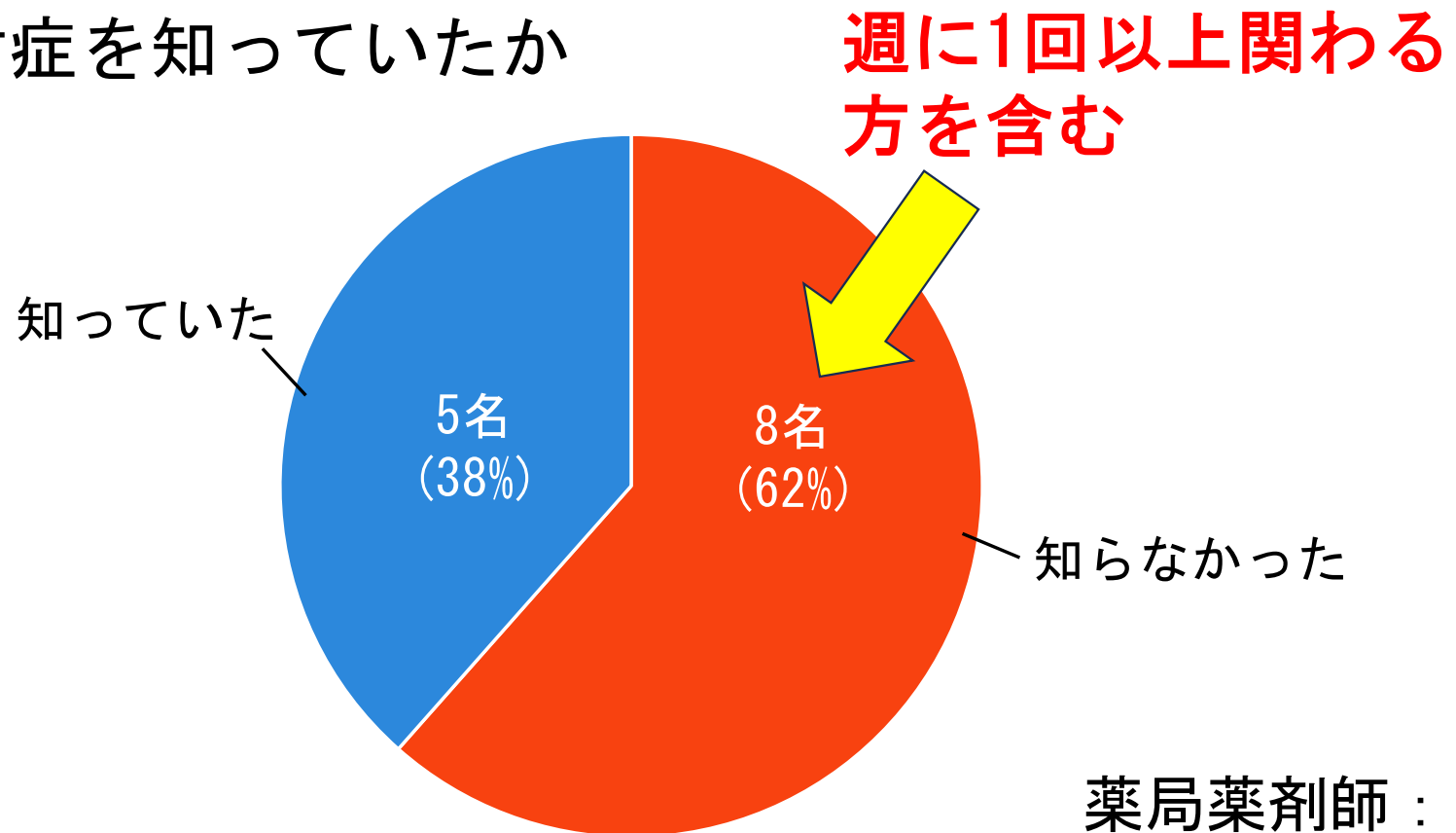
5-ASA製剤の投与中止で改善

服薬指導のポイント！！

投与開始初期に症状が悪化した際は服用を中止し、
連絡するよう指導

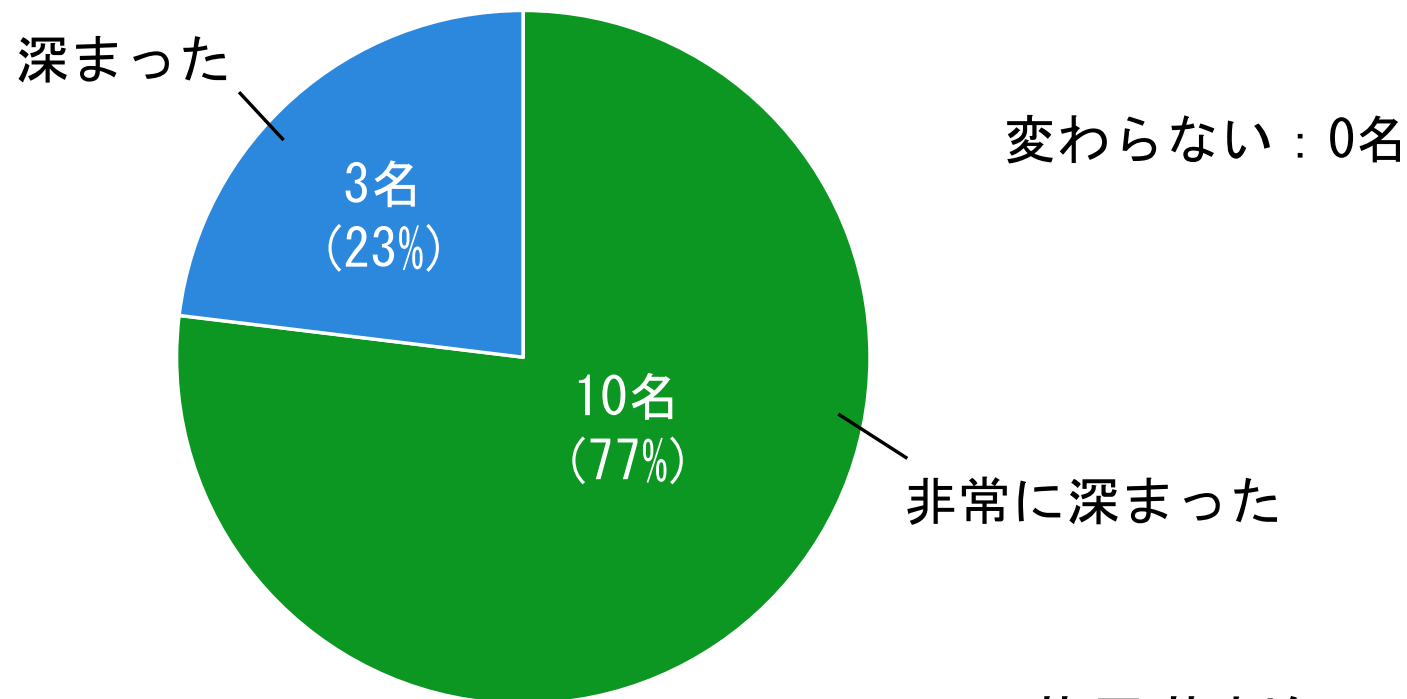
結果⑤

5-ASA不耐症を知っていたか



結果⑥

今回の勉強会を通じてIBDの薬物治療に関する知識が深まったか



変わらない : 0名

非常に深まった

薬局薬剤師 : 13名

考察

- 近隣薬局薬剤師の約半数が週1回以上IBD患者と接するにもかかわらず、IBD治療薬について学ぶ機会が「あまりない」との回答が9割以上を占めたことから、IBD治療薬について学ぶ機会が不十分であることが判明した。
- IBD治療薬の知識が「あまりない」との回答が半数以上を占め、今回の勉強会を通じて知識が「深まった」、「非常に深まった」との回答が全回答を占めたことからIBD治療薬の知識の均てん化を目的とした勉強会の開催は有用であり、継続して行っていく必要があると考えられる。